

15. 鳥取県におけるカワウの営巣状況調査

福本 一彦・山川 歩^{*1}・平田 滋樹^{*1}・大西 良幸^{*1}・前田 浩行^{*2}・福井 利憲^{*3}

目的

鳥取県におけるカワウの営巣状況等について把握する。

方法

県関係機関や地元漁協，鳥取市，倉吉市からの情報に基づき，2009年5月20日に湖山池団子島，同年5月22日に倉吉市向山において 関係機関とともにカワウの営巣状況について調査した。また，同年5月14日に(財)中海水鳥国際交流基金が実施したカワウ標識調査に同行し，中海に位置するに萱島における営巣状況や食性等について調査した。

結果

湖山池団子島

団子島南側の樹上において6巣が確認され，各巣内には幼鳥が1羽ずつ確認された(図1)。巣の下は糞により樹木が枯れ，土壌が流出していた(図2)。



図1. 団子島におけるカワウの巣および幼鳥



図2. 巣の下では糞が植物に堆積

倉吉市向山

本調査地では6巣が確認され，各巣内には幼鳥

が1または2羽確認された(図3)。巣の下では林床に糞が堆積し，植生が衰退しつつあった。



図3. 向山における営巣状況

中海萱島

本調査地では複数の巣が観察され，巣内に2-3羽の幼鳥が確認された(図4)。

幼鳥および成鳥から吐き出された魚類を調べたところ，コノシロ，オイカワ，オヤニラミ，ムギツク，ドンコ，コイおよびヒラメが確認された。



図4. 萱島における営巣状況



図5. カワウ成鳥および幼鳥から吐き出されたコノシロ(左)，オヤニラミおよびムギツク(右)

以上のように，鳥取市湖山池および倉吉市向山でカワウの営巣が初確認され，営巣地下の植生も衰退しつつある状況が確認された。

今後，被害発生現場への飛来数や営巣状況，胃内容物等を把握し，カワウによる水産被害の実態について把握する必要がある。

^{*1} 鳥取県農林水産部生産振興課

^{*2} 鳥取県生活環境部公園自然課

^{*3} 鳥取県農林水産部水産課